

1 [2015 福井大]

三角形  $OAB$  があり、 $0 < p < 1$ 、 $0 < q < 1$  として、辺  $OA$  を  $p : (1-p)$  に内分する点を  $C$ 、辺  $OB$  を  $q : (1-q)$  に内分する点を  $D$  とする。線分  $AD$  と線分  $BC$  の交点を  $E$ 、線分  $AB$ 、 $OE$ 、 $CD$  の中点をそれぞれ  $F$ 、 $G$ 、 $H$  とする。 $\vec{OA} = \vec{a}$ 、 $\vec{OB} = \vec{b}$  とするとき、次の問いに答えよ。

- $\vec{OE}$  を、 $p$ 、 $q$ 、 $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$  を用いて表せ。
- 3点  $F$ 、 $G$ 、 $H$  は一直線上にあることを示せ。
- $OA=2$ 、 $OB=3$ 、 $\angle AOB = \frac{2}{3}\pi$  に対して  $GF : GH = 7 : 2$ 、 $AB \perp GF$  となるとき、 $p$  と  $q$  の値を求めよ。

2 [2017 関西学院大]

$\triangle ABC$  とその重心  $G$  に対して  $AG=2$ 、 $BG=3$ 、 $\angle AGB = \frac{2}{3}\pi$  であるとする。

このとき、 $\triangle ABC$  の面積は  $\sqrt{\square}$  である。 $\vec{GC}$  を  $\vec{GA}$  と  $\vec{GB}$  を用いて表すと  $\vec{GC} = \sqrt{\square}$  であるから、 $GC = \sqrt{\square}$  である。また、 $\cos \angle BGC = \sqrt{\square}$  であり、 $BC = \sqrt{\square}$  である。

3 [2010 香川大]

点  $O$  を中心とし、半径  $1$  の円に内接する  $\triangle ABC$  が  $\vec{OA} + \sqrt{3}\vec{OB} + 2\vec{OC} = \vec{0}$  を満たしている。

- 内積  $\vec{OA} \cdot \vec{OB}$ 、 $\vec{OA} \cdot \vec{OC}$  を求めよ。 (2)  $\angle AOB$ 、 $\angle AOC$  を求めよ。
- $\triangle ABC$  の面積を求めよ。
- 辺  $BC$  の長さ、および頂点  $A$  から対辺  $BC$  に引いた垂線の長さを求めよ。

4 [2017 三重大]

座標平面上に点  $A(-1, 0)$ 、 $B(0, 2)$ 、 $C(1, 0)$  がある。線分  $AB$  上に点  $P$ 、線分  $BC$  上に点  $Q$ 、線分  $CA$  上に点  $R$  とする。 $\triangle ABC$  の外心を  $E$  とするとき、次の問いに答えよ。

- $E$  の座標を求めよ。
- $\vec{AP} = l\vec{AB}$  とするとき、 $\vec{EP}$  の大きさを  $l$  を用いて表せ。
- $\triangle PQR$  の外心が  $E$  と一致するとき、 $l$  の値のとりうる範囲を求めよ。

5 [2017 東北大]

$s$  を正の実数とする。鋭角三角形  $ABC$  において、辺  $AB$  を  $s : 1$  に内分する点を  $D$  とし、辺  $BC$  を  $s : 3$  に内分する点を  $E$  とする。線分  $CD$  と線分  $AE$  の交点を  $F$  とする。

- $\vec{AF} = \alpha\vec{AB} + \beta\vec{AC}$  とするとき、 $\alpha$  と  $\beta$  を求めよ。
- $F$  から辺  $AC$  に下ろした垂線を  $FG$  とする。 $FG$  の長さが最大となるとき  $s$  を求めよ。

6 [2017 北海道大]

平面上の点  $O$  を中心とする半径  $1$  の円を  $C$  とする。円  $C$  の内部に点  $A$  がある。円  $C$  の周上に2点  $P$ 、 $Q$  が条件  $\vec{AP} \perp \vec{AQ}$  を満たしながら動く。線分  $PQ$  の中点を  $R$  とする。また、 $\vec{OA} = \vec{a}$ 、 $|\vec{a}| = r$ 、 $\vec{OP} = \vec{p}$ 、 $\vec{OQ} = \vec{q}$  とする。ただし、 $0 < r < 1$  とする。

- $|\vec{AR}|^2$  を内積  $\vec{p} \cdot \vec{q}$  を用いて表せ。
- 直線  $OA$  上の点  $B$  で、 $|\vec{BR}|^2$  が2点  $P$ 、 $Q$  の位置によらず一定であるものを求めよ。また、このときの  $|\vec{BR}|^2$  の値を  $r$  を用いて表せ。

7 [2017 静岡大]

平面上に三角形  $OAB$  がある。実数  $k$  に対して、直線  $AB$  上の点  $C$  を  $\vec{AC} = k\vec{AB}$  を満たす点とする。

- 等式  $|\vec{OA}|^2 = |\vec{OC}|^2 - 2\vec{OC} \cdot \vec{AC} + |\vec{AC}|^2$  が成り立つことを示せ。
- 等式  $(1-k)|\vec{OA}|^2 + k|\vec{OB}|^2 = |\vec{OC}|^2 + (1-k)|\vec{AC}|^2 + k|\vec{BC}|^2$  が成り立つことを示せ。
- 平面上の点  $D$  が等式

$$(1-k)|\vec{OA}|^2 + k|\vec{OB}|^2 = |\vec{OD}|^2 + (1-k)|\vec{AD}|^2 + k|\vec{BD}|^2$$

を満たすとき、 $\vec{OD} \cdot \vec{CD}$  の値を求めよ。

8 [2017 大阪府立大]

平面上に、 $AB=3$ 、 $AD=3$ 、 $DC=2$ 、 $\vec{AB} \cdot \vec{AD} = \sqrt{6}$  であり、辺  $AB$  と辺  $DC$  が平行な台形  $ABCD$  がある。また、 $t$  を  $0 < t < 1$  である実数とする。線分  $BD$  を  $t : (1-t)$  の比に内分する点を  $P$  とし、直線  $AP$  と直線  $BC$  の交点を  $Q$  とする。

- 三角形  $BCD$  の面積  $S_0$  を求めよ。
- 正の実数  $s$  を  $BQ : BC = s : 1$  で定めるとき、 $\vec{AQ}$  を  $\vec{AB}$ 、 $\vec{AD}$  および  $s$  を用いて表せ。
- (2) の  $s$  を  $t$  を用いて表せ。
- 線分  $PQ$  と線分  $DC$  が共有点をもたない  $t$  の範囲を求めよ。
- $t$  が(4)で求めた範囲にあるとする。四角形  $PQCD$  の面積と三角形  $ABP$  の面積が等しくなるときの  $t$  の値を求めよ。

9 [2017 三重大]

座標平面上に点  $O(0, 0)$ 、 $A(4, 0)$ 、 $B(1, 1)$ 、 $C(k, k)$  をとる。ただし  $k$  は正の実数である。また  $\angle OAB$  を  $\theta$  と表す。

- $\cos \theta$ 、 $\cos 2\theta$  を求めよ。
- $\angle OCA = 2\theta$  となるように  $k$  を定めよ。
- $k$  を(2)で求めたものとする。3点  $A$ 、 $B$ 、 $C$  を通る円と  $x$  軸との交点で、 $A$  以外のものを  $D$  と表す。このとき  $\cos \angle DCA$  を求めよ。また  $\triangle OCD$  と  $\triangle ACD$  の面積比を求めよ。

10 [2015 広島大]

座標平面上に原点  $O$  と2点  $A(1, 0)$ 、 $B(0, 1)$  をとり、 $\vec{a} = \vec{OA}$ 、 $\vec{b} = \vec{OB}$  とする。点  $C$  は  $|\vec{OC}| = 1$ 、 $0^\circ < \angle AOC < 90^\circ$ 、 $0^\circ < \angle BOC < 90^\circ$  を満たすとする。 $\vec{OA} \cdot \vec{OC} = t$  とするとき、次の問いに答えよ。

- $\vec{OC}$  を  $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ 、 $t$  を用いて表せ。
- 線分  $AB$  と線分  $OC$  の交点を  $D$  とする。 $\vec{OD}$  を  $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ 、 $t$  を用いて表せ。
- 点  $C$  から線分  $OA$  に引いた垂線と線分  $AB$  の交点を  $E$  とする。 $D$  は(2)で定めた点とする。このとき、 $\triangle OBD$  と  $\triangle CDE$  の面積の和を  $t$  を用いて表せ。

11 [2017 香川大]

三角形  $ABC$  において、辺  $AB$  を  $m : n$  に内分する点を  $P$ 、辺  $AC$  を  $n : m$  に内分する点を  $Q$ 、辺  $BC$  の中点を  $M$  とする。ただし、 $m > 0$ 、 $n > 0$  とする。 $\vec{AB} = \vec{a}$ 、 $\vec{AC} = \vec{b}$  とおくと、次の問いに答えよ。

- $\vec{AM}$  を  $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$  を用いて表せ。
- 線分  $AM$  と  $PQ$  の交点を  $R$  とするとき、 $\vec{AR}$  を  $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ 、 $m$ 、 $n$  を用いて表せ。
- $\frac{AR}{AM}$  を  $m$ 、 $n$  を用いて表し、線分  $PQ$  が三角形  $ABC$  の重心を通らないことを示せ。

12 [2013 島根大]

数列  $\{a_n\}$ 、 $\{b_n\}$  を  $a_1 = 1$ 、 $b_1 = 0$ 、 $a_{n+1} = \frac{1}{4}a_n - \frac{\sqrt{3}}{4}b_n$ 、 $b_{n+1} = \frac{\sqrt{3}}{4}a_n + \frac{1}{4}b_n$  によって定め、座標が  $(a_n, b_n)$  である点を  $C_n$  とする。原点を  $O$  とするとき、次の問いに答えよ。

- $\vec{OC}_n$  の大きさ  $|\vec{OC}_n|$  を、 $n$  を用いて表せ。
- $\vec{OC}_n$  と  $\vec{OC}_{n+1}$  のなす角を求めよ。
- $S_n$  を  $\triangle OC_n C_{n+1}$  の面積とすると、 $S_n \leq \frac{1}{2^{2013}}$  を満たす最小の自然数  $n$  を求めよ。

13 [2013 滋賀大]

$\triangle O_1A_1B_1$  において辺  $A_1B_1$ 、 $B_1O_1$ 、 $O_1A_1$  の中点をそれぞれ  $O_2$ 、 $A_2$ 、 $B_2$  とする。次に、 $\triangle O_2A_2B_2$  において辺  $A_2B_2$ 、 $B_2O_2$ 、 $O_2A_2$  の中点をそれぞれ  $O_3$ 、 $A_3$ 、 $B_3$  とする。これを繰り返して、 $\triangle O_nA_nB_n$  において辺  $A_nB_n$ 、 $B_nO_n$ 、 $O_nA_n$  の中点をそれぞれ  $O_{n+1}$ 、 $A_{n+1}$ 、 $B_{n+1}$  とする。ただし、 $n = 1, 2, 3, \dots$  である。また、 $\vec{O_1A_1} = \vec{a}$ 、 $\vec{O_1B_1} = \vec{b}$ 、 $|\vec{a}| = 3$ 、 $|\vec{b}| = \sqrt{6}$ 、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = \frac{3}{2}$  である。

- $\triangle O_1A_1B_1$  の重心を  $G$  とするとき、 $|\vec{GO_1}|$ 、 $|\vec{GA_1}|$ 、 $|\vec{GB_1}|$  の値を求めよ。
- $\triangle O_nA_nB_n$  の重心が  $G$  であることを、数学的帰納法を用いて証明せよ。
- $\triangle O_nA_nB_n$  が  $G$  を中心とする半径  $10^{-4}$  の円の内部に含まれる最小の  $n$  の値を求めよ。ただし、 $\log_{10} 2 = 0.3010$  とする。

14 [2013 新潟大]

平面上の2つのベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  はそれぞれの大きさが1であり、また平行でないとする。

(1)  $t \geq 0$  であるような実数  $t$  に対して、不等式  $0 < |\vec{a} + t\vec{b}|^2 \leq (1+t)^2$  が成立することを示せ。

(2)  $t \geq 0$  であるような実数  $t$  に対して  $\vec{p} = \frac{2t^2\vec{b}}{|\vec{a} + t\vec{b}|^2}$  とおき、 $f(t) = |\vec{p}|$  とする。この

とき、不等式  $f(t) \geq \frac{2t^2}{(1+t)^2}$  が成立することを示せ。

(3)  $f(t) = 1$  となる正の実数  $t$  が存在することを示せ。